

		測定する能力		
漢字・語彙力	論理的言語力	論理的読解力A	論理的読解力B	論理的思考力
漢字の読み・書きに加え、漢字を言葉として使いこなす力。文脈の中で正しく判断する力。	主語と述語の関係、言葉のつながり、助動詞の使用など、日本語の基本的な規則。	簡単な文章を筋道を立てて読み、理解する力。誰が・何を・どこで・どうした・なぜ、などを把握できるかどうか。	簡単な物語文を読み取る力。特に物語の筋や登場人物の心情などを、客観的に把握する力。	日本語の規則に従って、簡単な一文を作成する力。一文を作成する上での助詞の正確な使い方。
				与えられた絵の中で、必要な情報を正確に読み取り、主観を入れずにそれを表現する力。

◆問題Ⅰ◆

漢字・ごい力

(60点)

●答え

- 一 (1) 足 (2) 休 (3) 空気
- 二 (1) わたしは 花びんに チューリップを さした。
 (2) 花けんで 手を よく あらいました。
 (3) ぼくは かいだん 一かいに 下りる。
- 三 (1) ぎあざあ (2) きらきら
 (3) ゆらゆら (4) ちよきちよき

◆点数

- 一 各5点
 二 各7点(漢字3点 助詞各2点)
 三 各6点

◆かいせつ

- 一 文章のないようから、意味を考えます。
 (1) 十分にあることを「足りる」、ないことを「足りない」といいます。
- 二 「休けい」は「休みすること」。
 (3) 風船に入れるものは「空気」。
- 三 さしたのは「わたし」なので、「わたしは」。花びんに花をさすのだから「チューリップを」。
 (2) 何で何をあらうかを考えます。
 (3) 「かいだんで」の「で」は、行くしゅだんを表します。どこに下りるかというと、「一かいに」。「一かいへ」でもよいですが、「へ」がせんたくしにありません。
- 三 (1) 雨がたくさんふる様子。
 (2) 光りかがやく様子。
 (3) ゆっくりとゆれうごく様子。

◆問題Ⅱ◆

ろんりてき言語力

(30点)

(4) はさみなどで切る様子。

●答え

- 一 (1) けいさん (2) くすり
 二 (1) きせつ (2) かく
 三 (1) ウ ア
 四 (1) イ ウ
 五 (1) でも (2) だから

◆点数

- 一 各3点
 二 各3点
 三 各3点
 四 各3点
 五 各3点

◆かいせつ

- 一 それぞれの言葉のきょうつう点をさがし、なかまにならない言葉をえらびます。
 (1) 「けいさん」の他は、スポーツのなかま。
 (2) 「くすり」の他は、文ぼうぐのなかま。
- 二 それぞれの言葉のきょうつう点をさがし、それらをまとめる言葉をえらびます。
 三 反対の意味の言葉をおぼえましょう。
 (1) 「おもて」の反対は「うら」。
 (2) 「ふかい」の反対は「あさい」。
- 四 駅に「むかう」とは、駅の方に行くこと。
 (2) きりんが何を食べるかという「草を」。
 五 文と文とのつながりを考えます。
 (1) いつも元気だけれど、きのうはねつを出したと反対のことを言っているので、「でも」。
 (2) ケーキを買いに行った理由が、前にある「いつものたん生日」なので、「だから」。

◆ 問題Ⅲ

ろんりてきどっかい力A

(30点)

● 答え

- 一 ウ
- 二 いろのかず
- 三 いろをあらわすことばがちがう(から。)

◆ 点数
各10点

◆ かいせつ

- 一 この文章は何の話なのかを読みとります。「にじのいろ」についての話がかかれています。
- 二 2行目に「にじの いろの かずは、くにによつて ちがひ」とあります。
- 三 5行目「いろの かずが ちがうのは」の後に書いてあります。

◆ 問題Ⅳ

ろんりてき思考力

(30点)

● 答え

- 一 (1) ア (2) イ
- 二 (1) ア (2) イ

- (1) わたしは チューリップの きゆうこんをうえた。
- (2) ほくの おとうさんは たくさんの さかなをつつた。

◆ 点数

一 各7点

二 各8点

◆ かいせつ

日本語のきまりにしたがつて、正しい一文を作れるか。

一

- (1) 「なつ」をせつめいする言葉は、「あつい」。
- (2) 「ばら」をせつめいする言葉は「きれいな」。

二 まずじゆつ語(どうする、どんなだ、なんだ)を見つげ、それに合う主語(なにが、だれが)を見つめます。

(1) じゆつ語は「うえた」で、主語は「わたしは」。何を植えたかという「チューリップの」↓「きゆうこんを」。

(2) じゆつ語は「つつた」で、主語は「おとうさんは」。何をつつたかという「さかなを」。「ほくの」↓「おとうさんは」↓「つつた」、「たくさんの」↓「さかなを」↓「つつた」とつながります。

◆ 問題Ⅴ

ろんりてきどっかい力B

(30点)

● 答え

- 一 (1) ア→オ→イ→エ→ウ (2) ウ
- 二 (1) イ (2) ウ

◆ 点数

一 10点(完全解答)

(2) 10点

二 各5点

◆ かいせつ

一 話の順番を考える。

- (1) イ「こうして」、ウ「でも」、エ「それから」から始まることはないので、さいしょはアカオ。畑をたがやす男がいて、その男の畑にうさが来たという順番がよいから、アがさいしょ。その後、オ「うさがうしんでしまいました」↓イ「こうして」うさを手に入れることができました」とつながります。かんとんにうさを手に入れた男は、エ「はたけをたがやさず」すごします。しかし、ウ「うさがきりかぶにぶつかるとはもうありませんでした」というお話。
- (2) 男は、ぐうぜんうさを手に入れて、これからも楽をしてうさを手に入れられると思いましたが、同じやり方でうまくいくことは二度とありませんでした。つまり、いつまでも同じやり方をしても、うまくいくとはかぎらないということ。

二 気持ちを表す言葉をおぼえましょう。

- (1) 「ひやり」は、とつぜんのできごとにおどろいたり、こわいと思う様子を表す言葉。
- (2) 「いらいら」は、自分の思うようにいかず、いらだつ気持ちを表す言葉。

◆ 問題Ⅵ

ろんりてきひょうげん力

(20点)

● 答え

- (1) エ (2) オ (3) イ (4) ア (5) ウ

◆ 点数
各4点

◆ かいせつ

絵を見て、ありのままをとらえてひょうげんする力。

- (1) おばあさんは何の前にならわっているのか。
- (2) (3) おばあさんの何の上で何がねむっているのか。
- (4) (5) おばあさんの横で、だれが何を飲んでいるのか。